

人 チーム 制度



中央コンサルタンツ株式会社大阪支店 設計2部水口祐太さん

子どもと一緒に成長中

今回ご紹介するのは中央コンサルタンツ(株)で港湾構造物設計の仕事に携わる水口祐太さん。2019年に第一子となる息子さんが誕生されました!長男の誕生や働き方改革の流れの中で、同業種で働く奥様との二人三脚での育児やお仕事について伺いました。

プロフィール

氏名 : 水口祐太  
 所属 : 大阪支店設計2部  
 勤続年数 : 6年  
 資格 : RCCM(港湾及び空港)  
 居住地 : 大阪府  
 家族構成 : 妻、息子  
 勤務状況 : 通常勤務



これまでの経歴を簡単に教えてください。

大学院で港湾施設に関わる環境について学び、中央コンサルタンツ(株)に入社しました。入社して3年間は、港湾構造物の維持管理業務や設計業務、橋梁の予備設計や、補修設計業務に携わっておりました。入社4年目から、本格的に港湾構造物の設計業務へ専念することになり、そのタイミングで名古屋市にある本社へ転勤することになりました。1年半程度修行したのちに、息子の誕生とともに、大阪へ戻らせていただき、業務の主担当として、港湾に関わる業務全般に携わっています。

奥様と家事・育児の分担はどうされていますか?

妻が時短勤務なので、送り迎えや食事などはほとんど任せてしまっていますが、毎日のお風呂や、歯磨き、寝かしつけなどは私の担当です。妻が同業者ということもあり、遠方での打合せなどの際は、送り迎えをすることもあります。家事については、完全に半分ずつといきたいところですが、どうしても妻に頼るところもあり、今後の課題です。

経歴

2014年4月	入社 橋梁設計を担当
2016年4月	港湾構造物の設計を担当
2017年10月	名古屋本店に転勤
2018年7月	結婚
2019年1月	大阪支店に転勤
2019年5月	第一子誕生

仕事をしていくうえで難しい点や、工夫している点はありますか?

子どもが生まれる前から、工程管理に力を入れていました。子どもが生まれたことで、より多くのプライベートの時間を確保するため、工程管理の考え方を見直し、極力残業無しで帰ることができるように努力しています。

具体的には、業務に着手する際に、作業項目を整理する時間を十分に確保することにしています。半日程度確保して作業項目を整理し、工程計画を立てることで、次回打合せなどの目標までの作業内容を明確にしています。必要な時間と、作業内容のギャップを極限まで減らすことで、業務の手戻りや、無駄な作業を減らすことに成功しました。当たり前のことのように聞こえるかもしれませんが、しっかり詰めることが大切だと感じています。作業内容を詰める際に、自分の中だけでの整理ではなく上司や先輩たちに、作業する前に確認し、極限まで作業を洗い出すことがポイントだと思います。

その結果、業務の遅れを生じさせることなく、毎日定時に帰ることができ、家庭での時間を最大限に楽しむことができています。

建コン業界同士の結婚で良いことはありますか?

何事もそうだと思いますが、働く業界が同じことで、段違いに仕事への理解があります。業界そのものの特性として、作業の時間が把握しにくく、突発的な残業が発生するなどの問題がありますが、お互いに譲歩しつつ、家事の分担をすることができています。

ただし、理解があることに甘えるのではなく、極力平等に家事を分担し、同じ熱意で仕事に向かえるよう、お互いに努力しています。

最後に、建コンで働く皆さんに伝えたいことはありますか?

建設コンサルタントの仕事は、激務で残業時間が多いといわれてきました。しかし、やることを明確にし、作業時間とのギャップを極力減らすことで、業務の効率化が図られ、結果的にメリハリのついた仕事環境にすることができています。作業時間を延ばすのではなく、原点に立ち返ってその作業が必要かどうか考えることも、これからの働き方改革に必要なことだと思います。

